

ネイチャーセンター ガイド (92)

秋の遠足シーズンの到来！！

夏の余韻にひたる時間は一瞬だ。秋には都留市内外からたくさんのおびっ子達が宝の山にやって来る。

何をしに来るのかって？そりゃー、遠足に来るわけよ。秋の遠足といえば「歩いて、みんなどこかへ行く」イメージが強い。しかし、今はバスで宝の山へやって来る。塩山市や南アルプス市、東京都の渋谷区からもやって来るのだ。

時代の移り変わりとともに、遠足のスタイルも内容も変化してきている。

宝の山では、遠足の受け入れを始めて10年目になる。当初はさまざまなものを準備し提供していた。しかし、子ども達に与える影響が多いことが分かってきた5、6年前から「シンプルさを追求する」ことに目覚めた。このことに気づかせてくれたのは、遠足に来てくれた子ども達だった。予想外にシンプルなあそび「裸足で鬼ごっこ」が大好評であったのだ。スタッフとともに歩く「道なき道の森探検」も大人気のあそびだ。

テーマは、いつも「白いシャツを真っ黒にして帰る」。「お母さんに怒られる」という子ども達には「怒られたら番長に電話しなさい」と伝え、「きちんと番長が、小さいときに汚れる、土に触れ

る意味を父ちゃん、母ちゃんに教えてあげるから・・・」と説明する。

子どもの服が汚れるとなぜ親は怒るのだろうか？成長の現われではないだろうか？ただ洗うのに手間がかかるからそういつてるだけなのではなかろうか？

体験には意味がある。心に響く、心を育むという意味がある。その成果はすぐには現れない。幼少期の自然体験、五感を使う、汚れる、痛さを味わう、怪我をする、それぞれ発達段階と体験には密接な関係がある。自然は感覚で体験するものだ。世の中は体験を頭で理解しようと無理している。これでは、体験の意味をなさない。子どもが遠回りしても、失敗しても、親は見ている、そして見守るだけでいいのだ。ここに子ども達の成長があるのだ。服が汚れることに成長があるのだ。大人の心の中に服を汚したくない、顔に炭を塗られたくないという「構え」がある時点で、子どもとは長い間付き合っていくことはできないだろう。「構え」は心の成長を邪魔するからだ。指導員も心がけなくてはならない。

「本気」を知らない大人からは「本気」を学べない。子どもは「本気」を知りたい。「限界」を知りたい。「未知」なるものを知りたいがっている。サポートするだけでいい、大人は、スタッフは。

連絡・問合せ先 ☎(45)6222

宝の山ふれあい里ネイチャーセンター
開館時間：午前9時から午後4時まで

伝言板

富士北麓・東部地域振興局健康福祉部(大月保健所)

インフルエンザとは

インフルエンザウイルスの感染により、突然の高熱と全身のだるさ、筋肉痛などの全身症状が起こり、これらの症状と同時に咳や喉の痛みなどの呼吸器症状が現れてくる病気で、通常では発熱が二三日持続したのち、一週間程度で回復します。

【予防対策は？】

人混みでのマスクの着用や帰宅時の手洗い・うがいの励行です。日頃からバランスのとれた食生活と休養をとり、健康管理に気をつけることも大切です。加湿器などで室内の湿度を保つことも予防に効果があります。

【予防接種について】

感染を防ぐことはできませんが、発病する率や重症化する率を低下させます。特に、高齢者や基礎疾患がある方は、重症化しやすいのでかかりつけの医師と相談のうえ、接種を受けられることをお勧めします。

なお、予防接種の効果が現れるまで約二週間かかり、その効果の持続は約五カ月と考

えられておりますので流行の時期が一月三月であることを考えると、年内には接種を済ませておくことが大切です。

精神障害者主張大会開催

平成17年度テーマ
「心の歓びを求めて」

「今、この瞬間(とき)を！」
この大会は、精神障害者の自立と社会参加を図ること、精神障害に対する社会の偏見や差別などを解消することを目的として毎年開催しています。
「心の病」とともに歩む当事者が仲間や社会に対して伝えたい「想い・悩み・要望・体験」を熱く語ります。多くのおみなさまのご参加を心よりお待ちしております。

開催日 10月28日(金)

開演 午後1時

場所 うぐいすホール

主催 大ホール

主催 山梨県精神障害者社

会復帰関係施設連絡会

後援 山梨県立精神保健福

祉センター

問合せ先 山梨県精神障害者社

会復帰関係施設連絡会事務局

「きらく荘」

☎055(282)4004